

内田巖 （岩波） 洋書家。明治二十二年一月十五日東京生れ、昭和二十八年七月十七日歿（二九〇一五）。作家内田魯庵の長男。大正十五年東京美術學校卒。昭和五年フランス留學。八年光風會會員も、十一年退會して新制作派協會創設に参加。二十一年日本美術會委員長、二十二年日本共產黨入黨。

著書『物射の眼』（昭和十六年十一月十日京都・生命館出版部）、『繪畫の美（油繪篇）』（昭和十八年二月十八日富士房）、『父の畫齋』（合著、昭和十八年四月十五日三省堂編刊）、『人間畫家』（昭和二十一年七月五日寶雲舎）、『畫家と作品』（昭和二十二年八月二十日高桐書院）、『繪畫讀本』（昭和二十二年九月二十日曉書房）、『繪畫の論理』（昭和二十二年十月二十日書肆一杉）、『繪畫青年春記』（昭和二十二年十一月二十五日太利堂）、『美とヒューマンイズム』（昭和二十四年四月二十五日リスナー社）、『私はなぜ共產黨に入るため』（合著・土橋一吉編、昭和二十四年四月二十五日解放社）、『自由の旗の下に—私はなぜ共產黨員になったか』（合著・労働救済會編、昭和二十四年四月二十日二書房）、『シレーとコロ』（昭和二十五

年六月十日岩波書店「岩波新書」）等。  
 文獻、梅吉繪著『内田巖—人間畫家の生涯と作品』（昭和二十五年二月一日文庫・袖ま口綴り）等。

